令和2年10月29日　所　報　第１６６号

所　報

氷見市教育総合センター
〒935-0016 氷見市本町４－９
(氷見市教育文化センター内)
TEL　0766-74-8220（代）
FAX　0766-72-8122
e-mail　kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp
ホームページ　http://www.city.himi.toyama.jp/hp/departmentTop/kyouiku-i/kyouikukenkyu

自　ら　を　磨　く

氷見市中学校長会　会長
氷見市立南部中学校　校長　扇谷　孝代

コロナ禍の中、研修会の多くが感染症拡大のリスクが高いという理由で中止となりました。教員同士の学び合いの場や他に学ぶ貴重な機会が失われたことになります。何とも残念な話だと思っています。私自身、学校内外の研修から学ぶことは多くありました。特に先輩教員の方々からは、様々なことを教えていただきました。

私が初めて教壇に立ったのは昭和58年４月。赴任先は富山市の小学校でした。初任といえど即、２年生の学級担任です。学年主任の先生が、自分のやっていることは何を真似してもいいと言ってくださったので、とにかく暇さえあれば毎日、主任の教室の様子を見にいきました。幸いにして教室が隣だったので、廊下から覗くことができました。教室掲示等については、初めのうちはそのまま使わせていただいていましたが、次第に自分なりのアイディアが湧いてくるようになりました。基本をたたき込んでいただいたから、応用もできるようになったというところでしょうか。

３年目、県の初任研の代表者として、道徳の研究授業を行うことになったときは、当時の教頭先生が付きっきりで指導してくださいました。「こう発問したら、児童はどう答える？」「こういう反応だったらどう切り返す？」想定問答を繰り返しながら何度も何度も指導案を書き直しているうちに、子供の思考の流れを読みながら授業を組み立てることの大切さを知ることができました。

小学校で３年間勤めた後、氷見市の中学校に転任しました。初日、ある女性の先輩教員に「中学校と小学校は違うわよ。」と言われ、緊張で震え上がりました。しかし、その先輩教員はその後、機会を捉えてはその言葉の意味を教えてくださいました。発達の段階によって、教員の果たすべき役割は少なからず異なることが理解できるようになりました。ご自分が市外に転任なさる際、「私の玉手箱をあげる。」と言ってくださった進路指導に関する資料一式は、私が初めて３年生を担任したとき、本当に宝物となりました。

教科指導における最初の幸運は、高岡市の中学校で素晴らしい授業を見せていただいたことです。当時は中学校に転任したばかりで（言い訳ですが）まともな音楽の授業ができず、特に３年生の授業に出る前は腹が痛くなる始末。しかし、その中学校では、３年生全員が歌うことに没頭していました。あまりの違いに、「生徒の質が違う」などと、またもや言い訳に走ってしまいました。

次の幸運は、それをきちんと指摘してくださった先輩がいたことです。「生徒のせいにしない。」耳に痛い言葉でしたが、本当のことを直球で突いてくださったと思います。その先輩にはその後、教科指導に関する本当に多くのことを教えていただきました。

高岡市の先輩とは20年ほど経った後、学校現場ではありませんが、同じ職場で働かせていただきました。そこでは教科以外のことについてもご指導を賜ることができました。50歳近くになっても厳しく教えていただく機会に恵まれたことは、幸運だったと思います。

ここに紹介できた先輩方は数人だけですが、実はもっと多くの方々にお世話になっています。教員としての心構えや立ち居振る舞いをはじめ、教科指導、生徒指導等、何から何まで教えていただきました。一方、自分自身がそれだけのことを後輩にしてきたかといえば、甚だ自信がなく、申し訳ない限りです。

新型コロナウイルスとの戦いは長期に及ぶとされ、今後も研修会等がいくつも中止になることが予想されます。しかし、自らを磨こうとすれば、そのチャンスは身近でもつくることができるはずです。経験の浅い教員はもちろんのこと、全ての教員がこんな時だからこそできる研修は何かと自分なりに考え、実践していくことを期待しています。

学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業　拠点校の取組

今年度は南部中学校区の３校が研究拠点校となり、コロナ禍のなか、児童生徒の学力向上を目指した取組を工夫されています。本号では、そのうちの朝日丘小学校と十二町小学校の取組を紹介します。

朝日丘小学校　主体的に学習に取り組み、学び合う子供の育成
～「主体的・対話的で深い学び」の場の工夫を通して～

上記の研究主題のもと、「自ら学ぶ場」「他と学ぶ場」「確かな学びの場」の充実を目指して、学力向上の取組を進めている。

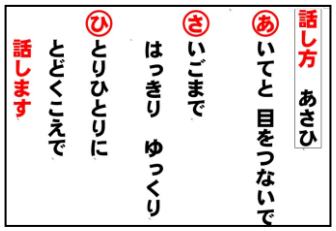
学力向上策１　児童の学びを深める　～基礎・基本の定着～

◆朝活動の充実◆

朝活動の時間（10 分間）を、学力づくりの時間として活用している。水曜日の「作文タイム」では、県学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果分析から課題を把握し、「書く力」の定着を目指して作成した問題に取り組ませている。木曜日の「漢字・計算タイム」は、学年の実態に応じて、基礎・基本を定着させるための問題（百マス計算等）を解く時間としている。

◆対話のスタンダードの作成◆

昨年度から、対話のスタンダードとして、「話し方『あさひ』」「聞き方『あいうえお』」「あいづち『あいうえお』」「ペアでの話し方」等を作成し、全校で活用している。合い言葉を意識しながら話合いを進めることで、互いに気持ちよく活動に参加し、深まりのある話合いが行えるようにしている。



学力向上策２　教師の学びを深める　～研修会の充実～

研究主題解明のため、国語科と算数科を中心に、「教材との対話」「仲間との対話」「自分との対話」を研究の視点として、授業研究を行っている。授業参観後は、各部会に分かれ、付箋を用いた協議会を通して、効果的な支援や発問の工夫等について話し合い、授業改善を図っている。

十二町小学校　主体的・協働的に取り組み、確かな学びをつくり上げる子どもの育成

学習に対する粘り強さや自発性に欠ける児童、語彙や表現のスキル不足から思いや考えを上手に伝えられずにいる児童がいることから、特に、「対話」と「省察」に重点を置いて研修を進めている。

学力向上策１　対話的な学びを通して、学びを広げたり深めたりする学習活動

瀬戸健先生（富山国際大学教授）を招聘して校内研修会を行った。提案授業（第１学年算数科「３つのかずのけいさん」）では、児童一人一人が、半具体物やブロックを操作しながら自分の考えをホワイトボードに表し、友達に伝えた。話合いの場面では、場面絵、ブロック操作、図、式等の共通点に目を向けながら話し合ったり、ブロック操作等で友達の考えを追体験したりして、１つの式をつくっていくことで、立式や計算方法への理解がより深まるようにした。瀬戸先生の講演では、「かかわり合い」「伝え合い」「振り返り」について学んだ。

◆校内研修会◆

◆２年国語科◆おはなしを読んで、しょうかいしよう「スイミー」◆
読み取ったスイミー像を各自のホワイトボードに書き、話し合う。

◆１年算数科◆３つのかずのけいさん◆
ブロックを操作しながら友達の考えを説明する。

聞く、話す力を高めるために「学びのステップアップブック（５訂版）」を活用している。有効に活用するために、「しっかりと聞く」「自分の考えと比べながら聞く」「はっきりと話す」「分かりやすく伝える」とはどのような姿なのかを、教員間で共通理解を図った。その後、各クラスで子供たちと話し合い、子供たちが具体的な姿をイメージできるようにした。そして、各クラスで取り組む「聞く、話すのステップアップ目標」を決め、１週間重点的に取り組んだ。

学力向上策２　自分の変容や成長を実感し、確かな学びにつなぐ省察

１時間の授業の中や単元全体、年間を通してなど、「省察」の場や内容を充実させるため、２か月に１度、児童の「振り返り」を持ち寄って、研修を進めている。

ＩＣＴを活用した授業づくり研修会　　於：灘浦小、北部中

９月２９日に灘浦小学校、１０月６日に北部中学校で、ＩＣＴを活用した授業づくりの在り方を考える「ＩＣＴを活用した授業づくり研修会」を開催しました。講師には、富山大学大学院教職実践開発研究科准教授 長谷川春生 先生をお招きし、研究授業、協議会を行いました。

灘浦小学校では、澤武佑紀教諭の第５学年総合的な学習の時間の授業がありました。Scratch を使って、なかよし交流会で使うゲーム「ねこから逃げるプログラム」を制作しました。児童は、ねこが思い通りに動くように、命令ブロックを選んだりブロックの順番を変えたりしてその都度ねこを動かし、試行錯誤しながら制作に取り組んでいました。

北部中学校では、中村祐太教諭の第２学年理科の授業がありました。タブレットの「デジタルオシロスコープ」を使って音を波形で捉え、音の大小と振幅、音の高低と振動数の関係について考えました。生徒は、普段目に見えない音が波形となって表れることに興味をもち、何度も波形の記録に取り組むなど、意欲的に学習していました。

協議会では、本時の実践をもとに、プログラミング教育の推進、一人一台端末の活用等について活発に意見が交わされました。長谷川先生からは、黒板と電子黒板との使い分け、タブレット使用のルールの徹底等のお話と共に、電子黒板もタブレットも使うことで分かることも多い、子供と一緒に正解を見付けるつもりで、どんどん挑戦してほしいというメッセージをいただきました。

今後は、一人一台端末の整備が進められていく予定です。各校では、ＩＣＴ教育推進委員を中心として、様々な取組を進めていただくようお願いします。

氷見市の外国語教育　～ＩＣＴ・ふるさと教材の活用が進む～

今年度より、小学校５・６年生で外国語科の授業が始まりました。各小学校では、「外国語教育ひみプラン」をベースに、外国語を使った様々な活動に積極的に取り組んでいます。２学期からは、４人のＡＬＴと３人の日本人指導員が、Ｔ２として外国語の授業を支援しています。

最近、実際の場面を設定してコミュニケーション活動に取り組む授業が増えてきました。ＩＣＴやふるさと教材を積極的に取り入れることで、外国語を身近に感じ、外国語活動や外国語学習を楽しむ子供たちがさらに増えることを望みます。

帰国したＡＬＴとオンラインで

新任のＡＬＴの友達に、今何時？

ふるさと教材を参考に紹介文づくり

小・中学生の力作！〈児童生徒科学作品県出品選考会〉

氷見市の科学作品展覧会を中止したため、県出品選考会を実施しました。県出品作品は以下のようになりました。短い夏季休業でしたが、研究課題に粘り強く取り組む力作ぞろいでした。

作　品　名	学校・学年	名　　前	県科学展
まなつのフリフリだいじっけん	十二町小学校　１年	海棠　結亜	創意工夫賞
かぶと虫王国を作ろう	窪小学校　　３年	辻　百英乃	研究努力賞
氷より固いパイクリートを作る研究	西條中学校　科学部	松原　太郎 外 16 名	研究努力賞

新規採用教員　－ 半年を振り返って －

子供たちのために

比美乃江小学校
大畠　侑万

子供たちと初めて出会った４月６日、その後すぐに臨時休校となり、期待が不安に変わっていくのを感じた。今まで経験したことのない事態に、私以上に子供たちは不安であっただろう。電話連絡、家庭訪問、分散登校を経て、６月１日にやっと全員がそろって登校することになった。久し振りに会った子供たちの存在は、「安心して過ごせる学校」という場が当たり前でなかったことに気付かせてくれた。

そして子供たちと一緒に過ごす時間を重ねていくたびに、子供たちが教室にいてくれる、話しかけてくれる、子供たちと共に学ぶことができるうれしさを日々実感している。まだまだ気を緩めることのできない毎日であるが、子供たちのために自分にできることを頑張っていきたいと思う。

子供たちの成長に負けないように

灘浦小学校
釣賀　茉優

採用から半年が経ち、素直で明るい子供たちや、優しく助けてくださる先生方に囲まれ、充実した毎日を過ごしている。５月、休校が明け「学校が始まって友達と勉強ができて嬉しい。」と、きらきらと目を輝かせる子供たちに再会した。その姿を見て、担任として、目の前の子供たちのために頑張ろうと決意を新たにした。思いもよらない考えを出し、様々なことに挑戦しながら、ヒマワリのようにどんどん成長していく子供の姿に、教員として働くことの魅力を何度も感じた半年だった。

これからも子供たちの成長に負けないよう、教員としての心配りと指導技術を身に付け、子供に寄り添いながら共に歩んでいきたい。

不安と笑顔

北部中学校
石野　実加子

新規採用となった矢先、新型コロナウイルス感染症の影響による休校期間、新しい生活様式での学校生活等、不安や戸惑いを抱えるスタートとなりました。しかし、周りの先生方にたくさん助けていただきながら、充実した日々を過ごすことができました。

部活動では、初めての顧問として、コロナ禍において様々な悔しい思いをしました。その思いを次に繋げようと、日々奮闘しています。

授業や行事を通して、まだまだ戸惑いや悩むこともたくさんありますが、生徒たちの「できた」「やった」の笑顔に励まされています。その笑顔をもっと見られるように、私も笑顔を絶やさず生徒たちと向き合い、一緒に成長していきたいと思います。

子供たちと共に

西條中学校
岡本　奈々

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、新年度を例年とは違った形で迎えましたが、子供たちの笑顔や元気な姿を見ることができる今、活気のある日々を送っています。

西條中学校に着任した当初、初めてづくしの出来事に、不安や戸惑いを感じることもありました。今も、大丈夫だろうかとふと考えるときがありますが、子供たちの真剣に授業を受けるまなざしや、「先生！」と話しかけてくる姿を見ると、「頑張ろう」という気持ちがこみ上げてきます。

子供たちが日々の学校生活を安心して楽しむことができるよう、自分ができることを増やしていきたいと思います。そして、共に学び、成長する、そんな教師でありたいと思います。